

ふるさと奥尻通信

平成29年4月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

奥尻－江差航路の2等大人運賃は、昭和42年：610円、同49年：790円、同51年：1,100円、同55年1,300円、同56年1,560円、同56年1560円、同58年1800円、同60年2000円。

特集 アヴローラおくしり勇退

平成29年4月30日をもって「アヴローラおくしり」が退役しました。この日は8:15に奥尻港を発した同船は、10:40に江差港へ入港、奥尻行の旅客105名と車両を積み込み、バラスト注水後に最終航海へ出発しました。この日は強い南西風のため、定刻よりやや遅れて15:45に入港しました。

港では町民や関係者が出迎え、そのまま勇退セレモニーが執り行われて、小学生より和野豊船長、鍛冶雅輝機関長に花束が手渡されました。参列者は長年日本海の荒波に揉まれて鉄さびが浮いた船体を眺め、感慨深い様子でした。

同船は平成10年(1998)に内海造船瀬戸田工場で起工、12月2日に進水、同11年4月に竣工した船です。4月中に奥尻へ回航され、14日に海洋研修センターにて祝賀会が開催されました。就航を記念し、当時の東日本海フェリー藤原弘社長より、島の全児童・生徒378名に学用品が、奥尻町に公用車2台が贈呈されました。祝賀会では商工会婦人部による余興と、「笑売人」柳亭久楽による漫談が披露されて会場を沸かせました。



東日本海フェリー時代のカラーリング 平成12年頃



江差-奥尻最終便が奥尻港入港 4月30日



瀬棚港から乗り込むツアー客



夏場はデッキの風も気持ちよい

「アヴローラ」とはローマ神話の「曙(夜明け)の女神」(アウロラのロシア語読み)を意味します。同名の艦船として、帝政ロシア時代の戦艦がサンクトペテルブルクのネヴァ川に係留され、船上博物館になっています。

さて、同船は、就航間もない平成11年8月19日、災害復興後の奥尻島へ行幸啓された今上天皇皇后両陛下のお召し船となりました。この日は藤原社長の案内で瀬棚港より奥尻港へ向かい、港では大勢の町民が歓迎しました。復興後の島の様子を視察された後、この日のうちに江差港へ出発されました。

その後、平成22年5月1日より瀬棚-奥尻航路へ投入されましたが、これは前年10月をもって「ニューひやま」が退役し、これまで2隻体制だった奥尻航路が本船のみの1隻体制となりました。以降、5月～10月は1日のうちに江差二往復、瀬棚一往復をこなす非常に忙しいスケジュールとなり、乗務員以下船体にも負担が少なくなかったことでしょう。

平成28年10月15日、瀬棚-奥尻航路の最終運行があり、瀬棚港では「SETANA PORT FINAL VOYAGE」と銘打った手旗が振られ、せたな町民の見送りの中、14:05頃に奥尻港へ向けて出港して行きました。今回奥尻航路を終えた同船は、しばらく奥尻港内に係留された後、5月8日に出港予定となっています。

【要目】

総トン数2248トン、全長76.6m、幅14.5m、深さ4.7m
主機関ダイハツ6DML-28、2基2軸
最大速力18.3ノット、航海速力17.1ノット
定員夏季534名、冬季393名



勇退セレモニー会場 4月30日



洛陽に染まりつつある船体



平成24年4月1日の早朝、江差港へ向けて奥尻港を出港する「アヴローラおくり」。名残雪が埠頭を白く染めている。ちょうど転勤する離島者が最も多くなる日、見送りの島民も大勢やってくる。恩師を送る教え子らが、船を追って埠頭の先端まで走り、立ち止まって見送る背中が寂しい。彩った紙テープは切れて海中に没し、間もなく別れの汽笛が鳴る。もう人の顔は豆粒のようで、涙で霞んだ目にはよく見えない。港口を出ると船は右に大きく旋回し、右舷を見せながら沖合彼方に遠ざかっていく。その頃にはすでに島は小さくなり、こんもりした丘のような陸地が海に浮かぶに過ぎなくなる。乗客は脳裏をよぎる思い出の数々に感慨深くなり、まだ寒々しく荒い波濤を切って進む船体は大きく揺れる。次に向かって船は進んでいく。



学芸員オスマエの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

ニセモノ図鑑 あ

世の中には贋作、コピー、イミテーション、レプリカなどと呼ばれる、いわゆるニセモノがたくさんあります。それらはちゃんと意味があって作られているのをご存じでしたか？単に悪くみして金儲けしてやろうというのではないのですよ(一部例外を除く)。そんなニセモノたちを真面目に紹介し展示企画をまとめたのが本書。これは画期的な本です。

月刊 奥尻のつり 4月号

案の定、今春は魚の回遊が早く、回遊魚も根魚も産卵のために岸寄りしています。それらを釣り上げてしまうので、釣り人は罪なヤツですね。ホッケやアブラコ、ハチガラは抱卵した雌ばかりですが、クロゾイだけは産卵後で体長の割に痩せていることがほとんどです。抱卵魚が釣れる沖での船釣りは別として、産卵前はエサを食べないのでしょうか。不思議です。クロゾイに関しては、産卵後に岩礁域に戻らずに岸辺に居残っている個体を釣り上げていることになりす。さて、サクラマスはまだまだ間に合うようで、たまに岸寄りした時などは青苗川河口で一人5本ほど持ち帰ることができます。サイズは40~50cm程度、大物はあまり出ません。沖のマスはさっぱりようで、景気の良い話は聞きません。どうしたものでしょうね。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つしヶ月 第20回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より
 せの良ぞ活をのけんいい此負將るの良突るもい
 る結く。の誓春てだ。るのけ来の島くっん行。今
 覚果し島カっ俺家。真ん肉なのははすてだくで晩
 悟はてはをた達を年黒だ体い問、立る突。ぞもは
 だ必みき持ん三も取く。は生題や派ん進そ。船鳥
 ずせとってだ入りっな決何活だっなだし今出賊
 大るとて。は返たっし処。ば日。てし迄れつ
 漁。俺乗毎父す父てて迄力そり本誰行てのばけ
 旗強達越日のるや家死もをれ子のがっ永授鳥に
 つをいのし、前ん兄のん比作に供島見てく業賊出
 づ挿生時て物でだ三為でんるはのにた此荒料つ
 げ活代見凄こ。人。には、事荒俺すっの濤代けれ
 見強はる生事年助く。にの。此を打取
 見強はる生事年助く。にの。此を打取

したの堤しえき朝たんに気
 よ。力がたて、に。屋建庄四
 うくを傾。く港か根つ四月
 。れ見く他ののけが奥暴十
 ぐせ被に波防て日飛尻八
 れつ害、に波猛はん島八日
 もけが奥恐堤烈前て津よに
 用らあ尻怖をな日し波り発
 心れり港を軽東夜ま館、生
 しま、の感々風かいの青し
 まし自防じとがらま苗た
 然波ま超吹翌し夕岬低

爆弾低気圧で屋根が...



期待が高まります！

たをクまれりうイ来う真港う五
 。覗りり込、。メでしつしん月四
 きユまみ時船あり白てせ一月
 こすで化体ジるのき奥日二
 むが。すにもしエグ船ま尻よ二十
 こ降車のも一たビで体し。り二日
 とろ両で強回もネすにたが就の
 がさ甲、いりのの。紫。奥航の
 でれ板期船大で薄船色真尻す屋
 き、よ待ときし紫名の新港る過
 ま内りものくよ色のカしにぎ
 し部ス高触なを由い入力、

カラッセ奥尻入港！

た。ま食と練パてる過いの釣
 しい。習タき)ぎるたり五月
 食てし時もし。でのめフ月
 欲、た化ほんしなすでにエ三
 ほ日こ後ほよ。だ毎がりの一
 ど間ろ、のどく本か回の上練バ
 ほ寝腹岸しるのコに釣くを
 にみでなで、ケなれ行し参
 。ま壊拾いで、るつきて加

新茶之記録(編集後記)

内も実た細でし募定しよ長奥
 の道行めり、ば集員たり・尻昨
 民内し、し將らしの。五生高年
 宿中た新て来たか半この徒等度
 に学もたい的定こ数れの四学より
 下ののなくに員とををは入十校一
 宿出で展懸も割に全今学一(俵谷
 で身す開念生れり学期が名)俊
 す。をが徒がり学かが。区らあに
 で、五模あ数続ま区らあに俊
 。、名索つがくす。よ入り島彦し
 町と、た先中。り学ま外校た

島留学生五人入学



せたな航路最終航海のフラッグ